
P 3 I F

winer

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

P3 IF

【Nコード】

N8392I

【作者名】

Winner

【あらすじ】

12月31日 もし あの時 望月を消していたら

本編では一気に3月まで飛んだような気がしたので勝手に初詣の話を書いてみた

P 3 妄想 I F

2009年 12月31日

有里 湊の部屋

「さあ どうする？ これは重要な選択だ」

望月 綾時は 視線を湊から外すことなく 見つめてくる

場の空気は重かった 湊は目を閉じ 考える

やがて 目を開き 答える

「記憶を捨てよう」

その答えを聞き 望月はフフッと微笑む

「・・・確かに それが君達にとっての最良の選択だと思うよ
でも いいのかい？ もう二度と選びなおす事は出来ないけど」

湊は表情を変えず 構わない と答えた

翌日

目が覚める

いつもと変わらない 寮の風景が目の前に広がる

1月1日 元旦の朝

新年を迎えた が 湊は去年一年間自分が何をしていたのか はつきりと思いつけなかった

ラウンジに降りた

仲間達が集まっていた

「おつ 来たね！有里君 早く準備しなよ！ 神社に初詣に行くよ」

ゆかりに促され 身支度を整える

「うっひょー 初詣 楽しみですねえ！」

順平は一人ではしゃいでいる

「初詣がどうかしたのか？」

真田が尋ねる

すると順平は軽く溜息を付き

「分からないんですかねえ 先輩は 初詣といったら 女性の晴れ姿じゃないですか！」

「ひょっとして順平 それが目当てで行くの？」

ゆかりがそう尋ねると 順平は満面の笑みでおう！と答える

その後 湊の耳に「新年早々バカね・・・」とゆかりの呟く声が聞こえたが 湊は黙って聞き流した

「皆さん そろそろ行きませんか？」

風花が話を切り替える

「そうだな 有里も準備が出来たようだし 出発しようか」
美鶴の一言で 一行は初詣に向かった

順平がハイテンションなのを除けば 皆 いつもと変わらなかった
しかし 誰も去年の話をしない

長鳴神社

元旦とあつてか多くの参拝者で賑わっていた

「おお！ 着物が一杯だ！ どの娘からナンパしようかな！」

「バカだろ・・・」

真田が小さく呟く

と 間もなく順平が本当にナンパを開始した
結果は予想できるので 誰も止めない

「ねえ お参りしようよ！」

ゆかりが言った

「そうだな・・・一年の計は元旦にありだ 何か自分に目標を課し
たほうがいいな」

美鶴はそう言つて賽銭箱に賽銭を入れ 鈴を鳴らし 何か小声で話
している

それに続いて湊達も参拝をする

参拝が終わり 振り返ると 鳥居の傍で順平がつづくまっている
理由は分かるので 誰も聞こうとしない

「聞いてよ!!」

順平が涙目で必死に叫ぶ

「どうせアンタナンパに失敗したんでしょうが」

ゆかりは流そうとするが 順平は食いついてくる

「でも後一步の所までいったんだぜ！」

「どこまでよ」

ゆかりがそう尋ねると順平は急に俯き 「さ さそうところまで

」

と小声で言った

「全然ダメじゃん！」

ゆかりはばっさり切り捨てる

「ひでえ！」

「ところで 皆さんは何をお願いしたんですか？」

風花が話を切り出した

「私は 今年も皆と仲良く出来ますように と後は部活の事かな

桐条先輩は？」

「私か？ 私はだな・・・学校の事とグループの事を少しな」

「自分の事は抜きか」

真田が少し茶化す

「全く無いわけじゃない それより明彦はどうなんだ？」

「俺は どこまでも自分に強くなるようにと・・・というか 神

頼みなどアテにならない！ 新年からトレーニングだ!!」

「まあ 真田先輩らしいけどね・・・」

ゆかりは少し失笑する

「でさあ 湊ってどうなのよ 何を願ったんだ？」
順平が湊に対し話題を振ってくる

「ええと・・・」

「どうした？ 言いにくい事か？」
美鶴が急かしてくる

「え・・・いや 僕は 何か忘れてる事を思い出せますようにと・・・」

それを言った瞬間 皆が笑い始める

「何だよそれ！ お前 若くしてボケが来たか？」

順平はヒイヒイ言っている

「失礼だな ボケてるんじゃない」

順平の笑いが止まらない このままでは周りに迷惑なので 寮に帰る一行

湊の部屋

新年早々 湊はTVも点けず ベッドに横になって音楽を聴いていた

ドンドン

ドアが叩かれる

「あの 山岸ですけど 有里君 ちょっといいかな？」

「あ ああ」

風花が部屋に入ってくる

「あのね さっき神社で有里君 思い出せない事があるって言うってたよね」

「ああ なんか記憶がぼやけてんだよね・・・」

「実は 私もそうなんだ・・・ なんか 去年あった出来事が 思い出せなくて 寮の皆と一緒にいた事は覚えているのだけど どうやって出会ったとか何をしたとか よく思い出せなくて・・・」

風花は少し目線を上げて 続ける

その目は まるで何か大切な物を失ったかのように 寂しげだった

「・・・」

湊には返す言葉が見つからなかった

一体 何を失ったのか？ 去年 何があったのか？

記憶が曖昧な中 時間だけが過ぎていく

時は・・・待たない

多分・・・続く

(後書き)

こんにちはWINNERです
最近P3Pにハマったので 勢いで書いてみました

一部出てないキャラがいるのは 許してください 泣

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8392i/>

P 3 I F

2010年10月9日01時26分発行